

11月例会の開催について（通知）

11月例会（定期学習会）を下記の通り開催いたします。

記

1. 日 時 令和4年11月5日（土） 13:30～15:30
2. 開催方式 従来の会場方式及び、オンライン方式による開催とします。

3. 参加方法 ①会場方式へ参加

アストプラザ津 会議室2

（津市羽所町700 アスト津4F ☎059-222-2525）

- ②オンライン方式（ウェビナーツール「Zoom」を利用）へ参加

参加者各自の自宅等

※ビデオ会議ツール「Zoom」を利用して、配信を行います。

※お申し込みいただいた皆様へ参加のためのURLを後日メールにてお知らせします。

※回線状況などでうまく配信できない場合があります。予めご了承ください。

※参加方法のどちらかを選択して、お申し込みください。

4. テーマ 「名古屋大都市圏の郊外住宅地の今

～人口減少に伴う都市構造の変容と

都市のスポンジ化への対応～」

5. 講師 大塚 俊幸 氏 中部大学 人文学部教授

【解題】

人口減少時代に本格的に突入してから10年以上が経過した。全国各地で空き地・空き家が時間的・空間的にランダムに発生する「都市のスポンジ化」が問題になっている。都市のスポンジ化は、地方都市の中心部では商店街のシャッター通り化などとして、また大都市や地方都市の郊外住宅地では空き地・空き家問題として顕在化している。

大都市の都心周辺部ではタワーマンションの建設が進み、人口の都心回帰がみられる一方で、郊外住宅地の衰退が問題視されている。しかし、その状況は一律ではない。中心都市の規模や都心からの距離帯によって、その状況はさまざまである。都心へのアクセスに便利な大都市圏郊外の鉄道駅周辺では相次いでマンション建設が行われ、大都市圏外縁部の既成市街地では、今日においても小規模な戸建て住宅地が供給されている。これらの実態をどう解釈すべきか。

コロナ禍を機に、多様な価値観を背景として人々の住まい方・働き方が大きく変化している。そこで、人々の住まい方や働き方の変化を概観したうえで、名古屋大都市圏の郊外住宅地を中心に、居住ニーズと住宅供給の実態を分析し、人口減少に伴う都市構造の変容（都市のあり方）と都市のスポンジ化への対応について考えてみたい。

(担当：伊藤達)

以上

都市環境ゼミナール事務局 行

申込み締切 10月26日(水)

11月例会(11/5)に参加します。

氏名：

勤務先：

参加方法：① アストプラザ津 ・ ② オンラインセミナー

※どちらかに○印をつけてください。

《申込先》 FAX 059-231-6403

【ご来場の際のご注意事項】

- ・体調のすぐれない方はご来場をお控え願います。
発熱（37.5℃以上）、頭痛、咳、喉の痛み、嗅覚、味覚の違和感、倦怠感など。

【受付にてのご注意事項】

- ・ご入場は必ずマスク着用にてお願いいたします。
- ・受付時の手指用消毒（アルコール消毒液）をお願いいたします。
ご不便をおかけいたしますが、感染予防のため、ご理解・ご協力をお願いいたします。

【Zoom を利用される方へのお願い】

- ※Zoom を初めて使用される方は、申込後に送られてくるメールに記載されている URL をクリックし、Zoom をパソコンへダウンロードおよびインストールが必要となります。
- ※インターネット回線の状況やメンテナンス、その他視聴者側のパソコン、スマートフォン、タブレットなどの環境等により、映像や音声途切れる、または停止するなど正常に視聴できない場合がございます。上記を理由に配信が正常に視聴できない、あるいは視聴することにより何らかの損害が生じた場合においても、当ゼミでは責任を負いかねますので、予めご了承ください。
- ※「レコーディング」ボタンがありますが許可されません。